

2019年  
4月号  
NO.0080

カトリック笹丘教会  
教会ニュース

福岡市中央区笹丘1-16-1  
Tel761-4504 fax761-4524  
広報委員会

福岡教区 2019年の目標 「信じる喜びから伝える喜びへ」

心の空き容量



主任司祭 遠山満

現代人の抱えている問題の一つは、人の話を聴くことができないと言う事ではないでしょうか。自分の心の中が、何らかの関心事で一杯の為か、あるいは人に関心を向けることができない所為なのか、人の話に耳を傾けることが苦手な人達が多いような気がします。私達は、ややもすれば、自分の家の前に、貧しく苦しんでいたラザロがいたのに、その存在に気づかないまま黄泉に墮ちてしまった、あの金持ちのようになってしまう可能性があります。

人の話に耳を傾ける為には、あるいは、心に余裕を持つ為には、どのようにすれば良いのでしょうか。その為には、外界を受け入れる為のスペースを心の中に作る必要があります。その為には、心の中に溜め込んでいる物を外に出す必要があります。私達は、日常生活の中で、様々な心配事や悩みを心の中に溜め込んでいます。心の中に様々な物を溜め込んでしまっている為、心にスペースが無くなるのです。それゆえ、心に溜め込んでいる事柄を、誰かに話す必要があります。

とはいえ、心に溜め込んでいる物を、誰に向かって話すかと言う事も問題です。人が心の中で抱えている問題や悩み事を、喜んで聴いてくれる人は、ほとんどいませんし、また、話した事柄が知れ渡る心配もあります。このような事を聴いてくれる人を、敢えて上げるなら、司祭や修道者、あるいは、カウンセラーです。これらの人達は、職業柄、守秘義務を負っていますので、話した事が知れ渡る心配がなく、安心して話せます。ただ問題なのは、悩み落ち込んでいる時、直ぐにこの人達と面談できるかと言えば、そういかない時もあります。相手も、人間ですから、アポイントを取り、面談の日まで待たなければならない事もあるのです。

いつでも、どこでも、悩む苦しむ時、私達の話をして聴いてくれるカウンセラーはいないのでしょうか？います。イエス様です。イエス様は、私達にとっての最高のカウンセラーです。イエス様に話せば、私達の心の中の空き容量が増えて行きます。他の人の話に耳を傾ける事ができるようになるのです。イエス様ご自身、私達に仰いました。「疲れた者、重荷を負う者は、誰でも私の元に来なさい。休ませてあげよう」(マタイ11章28節)。イエス様が私達から重荷を取り去って、私達の歩みを軽くして下さいます。それは、私達が、私達の周囲の、疲れた人、重荷を負う人の元に赴き、その人達の苦しみを軽くしながら、共に生きる為なのです。



『私の祖先 私を創ってくれた人のルーツを語る』

その8



匿名希望

長崎市内の公立の小中高校は、毎年8月9日は「平和学習」のための登校日になっている。私が小学生だった頃は、1学期の終業式の日には宿題が出された。「家族に原爆を体験した人がいたら、原爆の話を書いて作文に書きましょう」というものだった。

私の親の世代には被爆した人が多く、私も含めほとんどの生徒がきちんと作文を書いて登校日に発表していた。

小学校低学年のとき、私が「お父さん作文に書くけん、原爆のときの話ばして」と言うと父は躊躇することなく話し始めた。「あん日は家におってな、寝転んで本ば読みよった。そしたら突然ピカって光ってな、その後突風が吹いて部屋の壁に叩きつけられた」私はそれを作文に書いた。父から被爆当時の話で聞かされたのはそれだけだったので、毎年同じ内容だった。その内容に間違いはなかったが、その前後の壮絶な真実を知ったのは、原爆から50年経った時だった。

これから述べることは、私個人としては非常に重く、哀しい話だ。しかしそれは真実であり、あの悲劇を体験し、しかも50年間すべてを語れず封印した父と、当時行動を共にした父の兄である伯父との、生涯を通しての哀しみと贖罪だった。24年前、父から聞いたあの日のことを書く。

前号で述べたように、終戦間近父と伯父は勤労奉仕のため、長崎市内にある大橋工場と造船所を二人一組でリヤカーに部品を乗せ運ぶ仕事をしていた。昭和20年8月9日の朝、伯父は起床と同時に、全身に汗をかいていた。嫌な気持ちのまま朝食を摂り出かける用意をしていたが、時間が経つにつれ不快な気分は増していく。しかし工場を休むわけにはいかない。二人一組でやる仕事だから、自分が休んだら相手が困るだろう。それに体調が悪いわけではないから休む理由がない。伯父は靴を履きゲートルを巻いて立ち上がった。その直後、両足が強烈な力で玄関の土間に吸いつけられたように動かなくなった。呆然としながらなんとか足を動かそうとするが、びくともしない。そんな伯父の様子見て、祖母が声をかけた。「なんね、具合の悪かどね？」まさか足が動かないとは言えず、伯父は「今日はなんか具合の悪か。休む」祖母は伯父の顔をじっと見て言った。「そうね、ならしよんなか。今日は休めばよか」その直後、伯父の足は動いたが、そこから前に進むとするとまた動かなくなった。そんな兄の事情を知ることもなく、父はいつもどおり出かけようとしていたが、兄の姿が見えない。祖母に「兄貴は？」と聞くと「兄ちゃんは今日は具合の悪かけん、休むげな」と。単純な父は「そいはこすか！兄貴が休むならおいも休む！」

こうして長男と次男は工場の作業を休んだ。そして11時2分、そのときがきた。

【次月につづく】



カトリック笹丘教会 役員会議事録



開催日時：2019年3月23日（土）16：00～18：00

開催場所：信徒会館

出席者：遠山神父、川原、辻部、前田（美）、前田（史）、菅、松尾、畠山、川原（圭）、  
牧山 欠席者：なし

司会：川原 書記：牧山

†主の祈り

議題

1. 2019年度役員について

(1) 3月17日アンケートで推薦された方々の集まりの“まとめ”

- ・アンケート提出者 29名、被推薦者 46名
- ・出席者 男性 11名、女性 12名
- ・書記に井口剛さん、会計に田川浩二さんが承諾してくださった。
- ・今回のアンケート方式の振り返り  
結果的には良かったのではないかと思う。（畠山）

(2) 新体制について

- ・役員（案）の確認  
会長：川原、副会長：辻部、前田（美）、書記：牧山、井口、会計：菅、田川、  
福岡地区信徒使徒職協議会担当：畠山、福岡地区女性の会担当：川原（圭）
- ・新旧役員会議の開催  
4/28（日）10時のミサ後 役員会議 歓送迎会

2. 2019年度小教区の具体的取り組みについて

- (1) アンケートのまとめ 別紙参照
- (2) 今後の進め方  
4/28の新旧役員会議で検討し総会に諮る。

3. 総会について

- (1) 日程 5/12を予定していたが、午後2時から結婚式があるため、5/19に変更するかどうか、小、中学校の運動会の日程を確認して決める。
- (2) 会計監査 田川さんに打診する（川原会長）

(3) 資料作成

活動報告（牧山）、会計報告（前田史）、信徒協（畠山）、福岡地区女性の会（川原）年間行事（案）（川原会長）、予算（案）（前田史）

(4) 司会 辻部

※総会参加を意識付けるための工夫（委任状など）については今回は行わない

4. 信者会規約について

(1) 制定までのスケジュール

1年かけて検討し、来年の総会で諮る。



(2) 規約の性格

信徒会規約（司祭含まず）、信者会規約（司祭含む）、評議会規約、教会委員会規約と様々あるが、今回は信徒会規約として川原会長が原案を作成する。

5. 復活祭について

(1) 枝の準備 4/13（土）午前中

(2) 黙想会 4/14（日）（指導司祭：聖パウロ修道会 澤田豊成神父）

(3) パーティ

- ・復活玉子用のシール注文済
- ・玉子は430個注文し、400個を復活玉子に、30個を玉子サンドに使う
- ・料理は仕出しを頼む
- ・テーブル配置はコーヒーコーナーの様に島の形が良い。

6. その他

(1) クリスマスバザーの収益金（約30万）の献金先について

20万円を維持費営繕に、10万円を美野島司牧センター運営費に献金する。

(2) 4月の拡大信者会は行わない

次回役員会 4/28（日）10時ミサ後に新役員候補の方も含めて行う。

使徒的勧告「喜びに喜べ」の抜粋コピーを読んで終了

†アヴェマリアの祈り





## 『私のいた教会・私の信仰』



(M.I)

私のいた教会は海を見下ろす小高い所にあります。先祖たちが木を切り、運び出し、先祖たちが建てました。築 150 年の木造の教会で、信者たちがコツコツと働いて得た金を寄付し、自分たちの教会を少しずつ立派にしていきました。たとえ自分の暮らしが貧しくても祈りの場を豊かな場所にしたいとの思いがありました。

朝・夕の時間に色ガラスが教会の中を照らす様子が心を信仰に導きます。目に見えない何かを確かな信仰を感じさせてくれます。静かな信仰の時間がそこにありました。

「子供たちは信じる心を教わります」

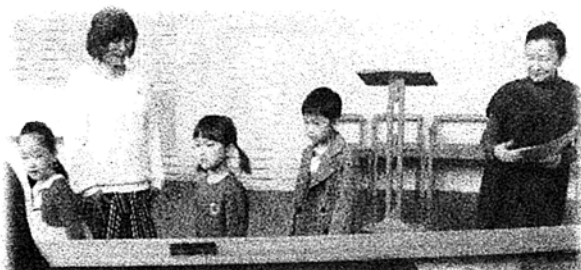
日曜日、夕方から祈りとロザリオの時間です。子供たちは祈りの時、先唱を行い、皆さんがそれに続く。毎週の金曜日の 3 時過ぎ十字架の道行が 100 年以上今でも続けられています。四旬節中は毎日午後 3 時過ぎから十字架の道行と、夕の祈りが行われます。

5 月の聖母月・6 月みこころの月は夕方からロザリオ、夕の祈りが毎日行われています。

子供たちの信仰の道です。私の信仰です。



## † 教会学校 始業式 4月7日 ようこそ教会学校へ



2019 年度の教会学校の始業式  
が聖堂で行われました。

3 名の新しいお友だちが  
紹介されました。

子どもたちは谷口先生のお話を真剣に聞いていました。



## ようこそ笹丘教会へ 西田まさなり神学生

よろしく願いたします



いつもありがとうございます。そして、お世話になります。

福岡カトリック神学院 神学科3年 P.アントニオ 西田祐尚(まさなり)

笹丘教会の皆様、神学生のためにいつもお祈りありがとうございます。今年一年の司牧実習を笹丘教会でお世話になります。神学科3年パドバ(パドア)のアントニオ西田 祐尚と申します。所属は長崎教区、出身は飽の浦教会です。昨年度の実習は小倉教会に行っておりました。今回、神学院の最寄り小教区であり、また神学院を一番近くで支えて下さっている笹丘教会に来ることができたこと、大変嬉しく思います。そして、私の様な者を実習生として受け入れてくださった主任司祭の遠山神父様、ヒルデン神父様、そして小教区の皆様に心から感謝申し上げます。

今年は祭壇奉仕者に選任して頂きましたので、この一年祭壇奉仕者としての役務を小教区でも実践させて頂きながら、教会活動、日曜学校などを通して将来への司牧のための学びを深めていきたいと思ひます。また、この一年は日ごろお世話になっております皆様に何か一つでも恩返しのようなことができればと思っております。一年間、どうぞよろしく願いたします。



### 編集後記

苦しみにうちひしがれている時、この様な時こそ、イエス様はより近くにいらっしゃるのだと近頃思う。この四旬節、とても苦しい時期があった。けれども今はそれがお恵みであったと気づく。イエス様は、溺れかけている人を救いだし、その腕でしっかりと抱き締めてくださっている。

イエス様、あなたの優しい愛を信じます。

主に感謝 主に賛美

